

「満足していない」が9割超！請求書発行システムの導入が進む一方で、消込・債権管理の課題が浮き彫りに

未収金の回収や繰り返される定期請求など負荷がかかる業務に大きな課題感

請求・債権管理クラウド「請求管理ロボ」を提供する株式会社ROBOT PAYMENT（本社：東京都渋谷区、代表取締役：清久 健也、以下 当社）は、請求業務及び管理システムの活用状況についてアンケート調査を行いました。

当社は、インボイス制度導入に伴うシステム化が進む中、単に請求書の発行をDX化するだけでなく、請求書発行の本来の目的である売掛金の回収に焦点を当て、今回のアンケートでは請求書発行に加え、消込や債権管理まで含めて調査を実施しました。その結果、請求書の発行や送付は、インボイス制度の後押しもありシステム利用が進んでいる一方、消込や債権管理など後工程の業務効率化は大きく遅れていることが明らかになりました。

■アンケート概要

アンケート名：請求管理・業務システムのアンケート【2024年実施】

アンケート方法：インターネット

回答期間：2024年3月6日～2024年3月11日

アンケート対象：全国の社会人177名

※本リリースに含まれる結果を掲載される際は、必ず「株式会社ROBOT PAYMENT（<https://www.robotpayment.co.jp/>）調べ」と明記してください。

■アンケート結果 サマリー

- クラウドやソフトウェアの利用はまだ半数、表計算ソフトや手書きなどのアナログ利用は約66.1%（※複数回答）
- 導入理由は「発行・送付の自動化」「法対応」がメイン
- 請求管理システムの導入が進んでいるが、92.3%が現状に満足していないという結果に
- 発行・送付に比べて入金消込・債権管理のほうが、時間と人員を要する負荷の高い業務

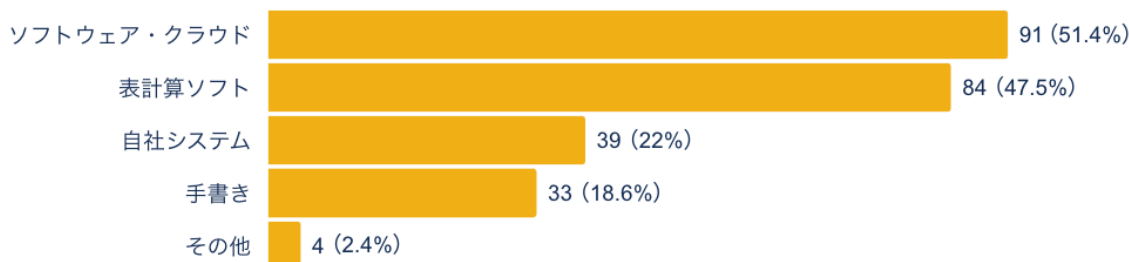
であることがわかった

- ・ 消込や債権管理、システム連携まで使いこなす人はまだ少ないことがわかった
- ・ デジタル・DX人材が不足していることがデジタル化の大きな阻害要因となっている

■ アンケート結果 詳細

- ・ 手書きや表計算ソフトを利用しており、システム化できていない企業もまだ存在

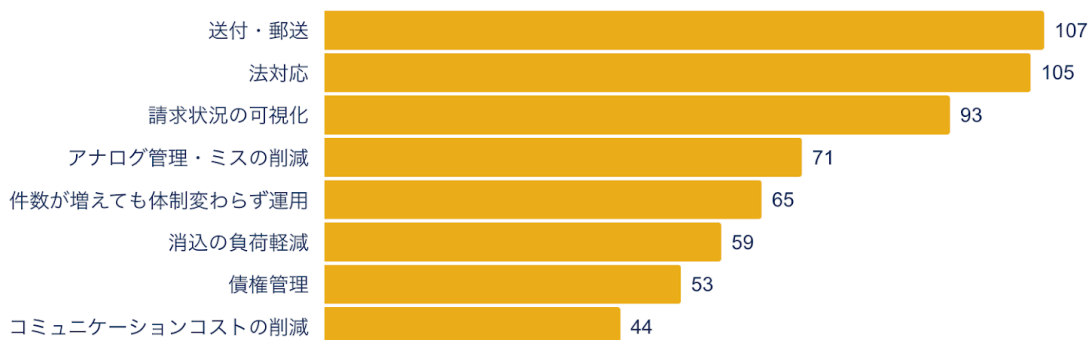
請求書の作成方法 ※複数回答



請求業務においてクラウドやソフトウェアの利用率は約半数程度であり、まだ多くの企業が複写式請求書などの手書きや、Excelなどの表計算ソフトで作成していることがわかりました。

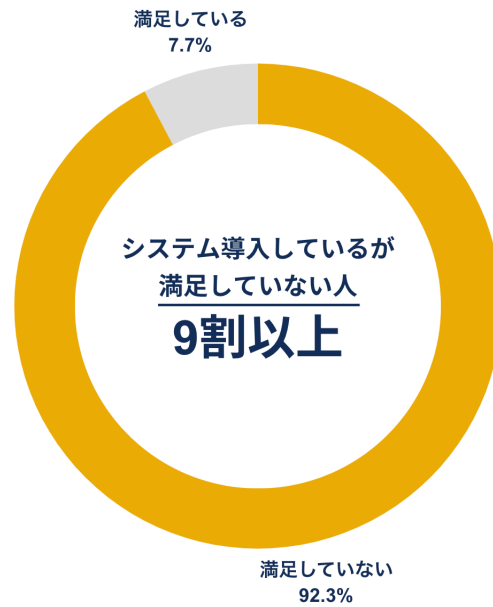
- ・ 発行以外の業務活用が少なく、DX化の余地がある

請求書を発行するシステムを利用するメリット



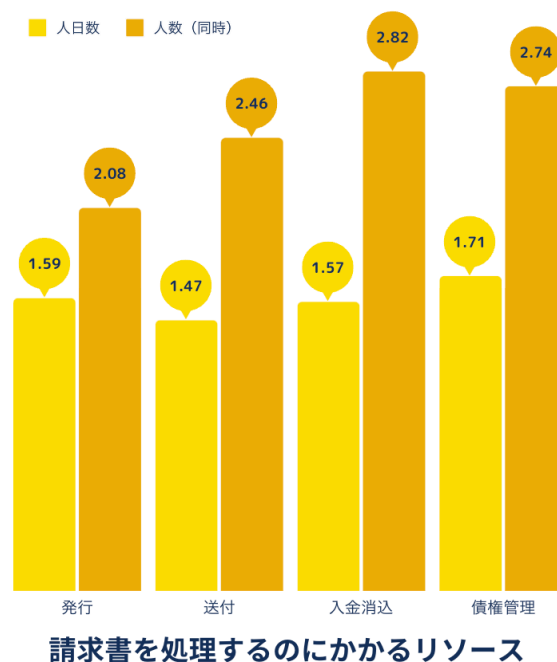
システム導入の理由は、発行・送付の自動化や法対応がメインであり、消込や債権管理、システム連携まで活用している企業はまだ少ないことがわかりました。システムを最大限に活用することで、消込や債権管理にかかる業務負荷の改善や、社内外のコミュニケーションコストを大幅に減らすことができます。

- ・ 現在利用している請求管理システムに満足している人は、わずか7.7%



システムは導入したが、満足していない人が9割超であることがわかりました。請求書の発行をデジタル化しても、毎月同じ請求先に同じ操作を繰り返していたり、入金把握や未収金の回収に追われ債権管理が不十分だったり、効率化がなかなか進まないとの声が多く見受けられました。単に請求書を電子化するだけでは業務改善は難しいと多くの企業が感じており、債権管理までシステム上で一貫して管理することが重要であると考えられます。

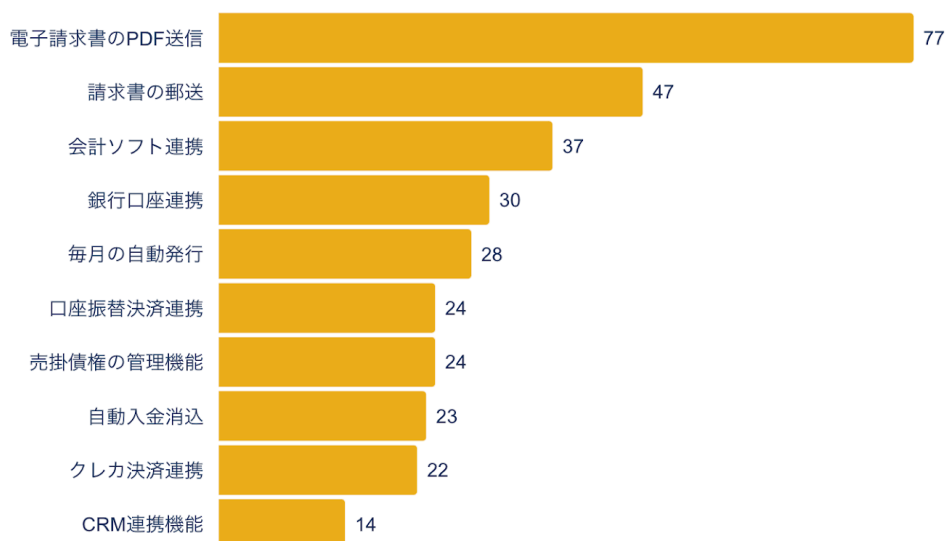
- ・ 請求書の消込・債権管理を自動化することが業務負荷低減の鍵



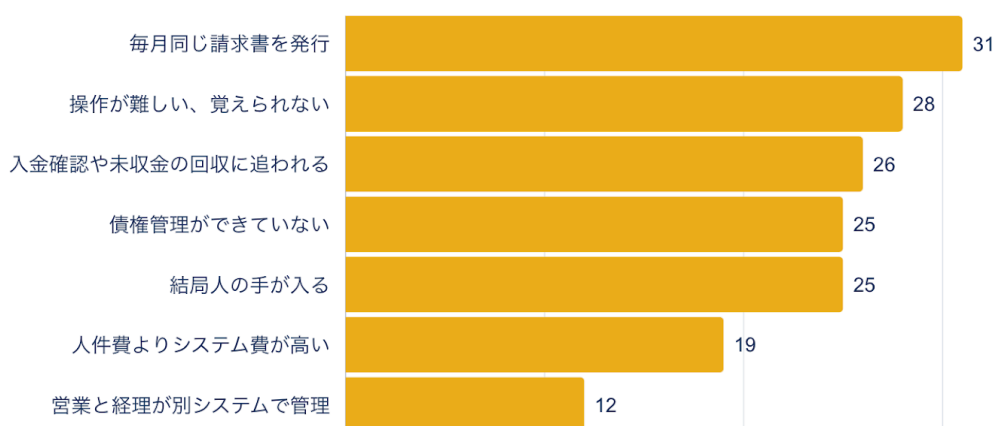
請求書の消込・債権管理は、発行・送付よりも時間と人員を要し、処理負荷も高いことがわかりました。これは、請求書処理の効率化において、消込・債権管理に重点を置く必要があることを示唆しています。

- ・“発行・送付ツール”としての利用が多く、負荷のかかる業務を十分に効率化できていない

請求管理システムで活用している機能



請求管理システム使用時に困っていること



導入理由にもあるように、請求管理システムを“発行・送付ツール”としてのみ使っているケースが少なくないことがわかりました。先述した通り、発行や送付などの請求業務の前工程に比べ、消込や債権管理などの後工程のほうが時間も工数もかかるため、本質的な課題を解決できていない可能性があると考えられます。

・適切なシステム選定とデジタル人材の育成が喫緊の課題

請求管理ツールを導入する／した時に感じた課題



デジタル化が進んでいるにもかかわらず、デジタル・DX人材不足が課題となっています。これは、単にツールを導入するだけでなく、企業規模に合わせた適切なシステム選定と、デジタル人材育成が不可欠であるといえます。

■発行から債権管理まで！一気通貫で効率化を目指すなら「請求管理ロボ」

The screenshot shows the homepage of Robot Payment. The main heading is '請求業務' (Billing Business) with sub-headings '請求' (Billing), '集金' (Collection), '消込' (Payment), and '催促' (Reminder). Below this, it asks 'まだ手作業ですか?' (Still manual work?) and states '毎月の面倒な作業時間を80%削減' (Reduce monthly tedious work time by 80%). There are buttons for '資料ダウンロード(無料)' (Download materials (free)), '料金を見る' (View rates), and 'Salesforce版はこちら' (Click here for Salesforce version). The top navigation bar includes '機能' (Features), '導入事例' (Cases), '料金' (Rates), 'セミナー' (Seminar), '業務提携' (Partnership), and 'サポート' (Support). A search bar contains '請求管理ロボ' and a magnifying glass icon. A man in a suit is visible on the right side of the page.

「請求管理ロボ」は、今までエクセルと手作業で行っていた、請求・集金・消込・催促といった作業を全て自動化し、請求業務の大幅削減を実現するクラウドサービスです。請求書の自動発行・自動送付をはじめ、クレジットカード決済・口座振替・銀行振込といった多彩な決済手段を活用した代金回収を行うことが可能となっており、さらには発行した請求書と入金情報の照合である消込作業の自動化まで実現しています。

(クラウド版) <https://www.robotpayment.co.jp/service/mikata/>

(for Salesforce) https://www.robotpayment.co.jp/lan/keiri_main/appexchange02/

■会社概要

社名 : 株式会社ROBOT PAYMENT (東証グロース : 4374)

所在地 : 東京都渋谷区神宮前6-19-20 第15荒井ビル4F

設立 : 2000年10月

代表 : 代表取締役 清久 健也

URL : <https://www.robotpayment.co.jp/>

請求管理ロボ : <https://www.robotpayment.co.jp/service/mikata/>

請求まるなげロボ : <https://www.robotpayment.co.jp/service/marunage/>

サブスクペイ : <https://www.robotpayment.co.jp/service/payment/>

1click後払い : https://www.robotpayment.co.jp/service/1click_atobarai/

▼メールマガジン・LINE公式アカウントで各種情報を配信しています

メールマガジン

- ・すべての適時開示・PR情報をリアルタイムにお知らせ
- ・登録はこちら : <https://www.magicalir.net/4374/mail/>

LINE公式アカウント

- ・主要ニュースリリース(解説コメント付き)、イベント案内・セミナー出演のお知らせ等
- ・IR担当者とチャットで質問・お問い合わせのやりとり
- ・登録はこちら : <https://lin.ee/keiczv9>

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社ROBOT PAYMENT
担当者名 : IR室 菊地 憂佑
電話番号 : 03-5469-5780
メール : ir@robotpayment.co.jp